

2013年1月1日発行

NPO法人RGS 協会発行 編集人 瀧内孝之 〒146-0094 東京都大田区東大田2-18-17 TEL.03-3757-3369 FAX.03-5482-8427

日本がだいすきです

スタン・ジャック



お店「ピアノパブ・ドール」にバースーンのえんそうにいきます。とてもたのしいです。

私のともだちのさがわゆきこさんと、すぎもとあきらさんといっしょのコンサート、コラボレーションはとてもたのしいです。

今はよく日本のミュージックをえんそうします。おこと、しゃみせん、びわなどの日本のがつきと、バースーンはととてもよくあいます。ぜひきいてみてください。

日本の生活はととてもたのしいです、まいにち日本語をべんきょうしています。朝ごはんをたべながら漢字をべんきょうしています。日本のけしきもすきです。ときどき東京のちかくをハイキングしたり、はこねにもいきます。こんどは、もつととおいところにもいきたいです。

日本のたべものもとてもおいしいです。とくに、やきとりやお寿司がすきです。日本酒もだいすきです。こんど、みなさんもいっしょに日本酒をのみましょう。

二〇一二年十二月



▲スタン・ジャック氏

私はスタン・ジャックともうします。フランス人です。リヨンのちかくでうまれました。九歳から十七歳まで、マコン (Macon) にすんでいました。

私のおとうさんとおじいさんはおんがくがすきで、トランペットをよくふいていました。そのころの私のしゅみは、小さいひこうきのもけいをつくることでした。おんがくとままたくかんけいのないことに、いっしょうけんめいになっていました。

ところがある日、私が十六歳のとき、りょうしんのともだちのバースーン (仏語ではバースーンと言います。英語ではファゴットです) プレーヤーが、とてもうつくしいミュージックをえんそうしてくれました。はじめてそのがつきの音をききました。とてもすばらしくてかんどうしました。そして、すぐにバースーンをならいました。

バースーンをふくのがたのしくて、それから二ねんかん、まいにち六じかんれんしゅうしました。そして私は、パリこくりつこうとうおんがくがくいん (Conservatoire Nationale supérieur de Musique de Paris) のがくせいになって、おんがくをならいました。そしてしゅせきでそこをそつぎょうしました。そして三十ねん間、パリのオーケストラでえんそうしました。

今は、私は東京にすんでいます。日本がだいすきです。まいしゅう水曜日には、よこはまの、さがわゆきこさんの

この歌に出会って

杉本 明

日本の経済成長を支えてきた世代です。経済成長の陰で、厳しいノルマ達成要求に耐えきれず、心労で倒れる友人も。
ご披露しましたところ、共感を頂きました。
より多くの方に聴いていただけるように頑張ります。

今から三年も前になりますが、横浜の「ピアノ・パブ・ドール」でピアノを弾かれる作曲家の杉村俊博先生から、「こんなものを創った」とCDを頂きました。

早稲田大学グリークラブOBの合唱、それにカラオケが吹きこまれていました。

CDの杉村先生の『還らざる日々』を聴いた途端、まるで我が

団塊の世代のみならず、経済成長を実感されてきた方々には、心に響く歌だと思えます。

※CDをご希望の方は、「ピアノパブ・ドール」においでください。

『還らざる日々』と題した曲は、作詞が友利歩未、作曲が杉村俊博の両氏の作であり、CDには、杉村先生ご自身が歌われている曲、

事が歌になっっているような感覚に襲われ、素敵な曲との出会いに涙した記憶があります。

私の故郷は九州で、団塊の世代、

客様も好んで歌われます。先日、先生の了解も得て、横浜の「シャンソニエ・デュモン」で



▲杉本 明さん

還らざる日々

作詞 友利 歩未
作曲 杉村 俊博

還らざる日々が今 この胸をよぎる
晴れ渡る蒼い空 風が駆けてゆく

宴の後に何が残るのだろうか
木漏れ日に抱かれて 花は散り急ぐ

前だけを見つめて
ひたむきに歩いて
戻る場所はこしかなかった

誰か教えてほしい 故郷の町は
疲れ果てた心を包んでくれるか
この道の先はもう 今は行き止まり
あの頃の少年が 遠くで手をふる

裸のボタ山には 木々が生い茂り
遙か夢の後先 さわさわと歌う

哀しみもいつかは
癒される日がくる
信じられる温もりがあれば

語りあう友がいて 飲み明かした夜
懐かしいあの店は どうなっているか

還らざる日々が この胸をよぎる



▲シャルル・トレネ

一九五九年三月二十二日の東京公演で『詩人の魂』を日本語で歌い、日本でも有名なトレネは、一九一三年地中海沿岸の町ナルボンヌで五月十八日に生まれている。母の浮気が元で両親が離婚したせい、彼は生涯結婚もせずにご逝した。

一九二〇年、トレネは美術家をめざしてベルリンに行く。フランスに帰ってからは、撮影場で小道具の係をしている。その後、当世はやりのスイングジャズに夢中になり、デュオチームを作ったりするが、一九三六年に召集令状が来たため解散。

一年間の兵役を終えた後、ミュージックホールの名門「ABC（ア・ベ・セ）」でソロデビューする。リス・ゴージェイの前座で二曲歌う予定が、聴衆の熱狂的な反応により八曲を歌い、シャンソン界にデビューした。

一九三八年ごろには映画にも出演している。ナチス占領下のパリでも、引つ張りだこの活躍をしたそうである。

こんなことから、戦後はアメリカに渡り、一九五一年まではフランスを留守にしていた。

フランスに戻ってからは、「エトワール劇場」での公演で大成功を収めているが、六〇年代に入るとその身辺が一転する。刑務所入りしゲイであることが知れ、当時としては世間に受け入れられなかったために、第一線から退いている。

ファンのプロモーターの計らいで、八〇年代になって「シャンゼリゼ劇場」「シャトレ座」「パレ・デ・コングレ」で成功を収め、日本にも来日、声量のある歌声で多くのファンを魅了した。

彼の作った曲のおもしろさは、メロディよりも歌詞と言う人もおり、そのことがトレネの成功に力を貸しているのかもしれない。

八十六歳になっても十四編の新曲を書き、歌もパリの名門ホール「サル・プレイエル」で三日間もコンサートを開いたが、それが最後の公演となった。

二〇〇一年二月十九日、パリ郊外クレテイルの病院で没している。

シャルル・トレネが1951年に作った作品で、よく歌われています。発表の翌年にはイヴェット・ジローが歌い、ディスク大賞を受賞しました。

シャルソン 名歌・鑑賞

L'ÂME DES POÈTES

Longtemps, longtemps, longtemps
Après que les poètes ont disparus
Leurs chansons courent encore dans les rues
La foule les chante un peu distraite en ignorant le nom d'auteur
Sans savoir pour qui battait leur coeur

Parfois on change un mot une phrase
Et quand on est à court d'idée
Oh fait la la la la lé...
La la la la lé...

Longtemps, longtemps, longtemps
Après que les poètes ont disparus
Leurs chansons courent encore dans les rues
Leur âme légère c'est leurs chansons
Qui rendent gais, qui rendent tristes
Filles et garçons
Bourgeois, artistes
Ou vagabonds...



詩人の魂

長い、長い、長い間
詩人達が消え去ってしまってから、その後もずっと
詩人達が作った歌は、今でも街に流れている
群衆は作者の名前も知らず彼らの歌を何となく歌う
詩人が誰のために心ときめかしたかも知らずに

時に、ちょっとした言葉や言い回しを変え
そして、良い考えが浮かばないときには
こんな風にラ、ラ、ラ、ラ...レ
ラ、ラ、ラ、ラ...レ

長い、長い、長い間
詩人達が消えてしまってから、その後もずっと
詩人達が作った歌は、まだ街に流れている
詩人達の軽やかな魂、詩人達の歌が
楽しくも、悲しくもする
娘達や少年達を
市民達もも、芸術家も
あるいはまた放浪者も...

カフェ シャンソニエ アコリット



◆カフェ シャンソニエ アコリット◆

豊島区目白 3-4-15 プラネット目白 B1F
TEL : 03-5982-5993

父親がもともと喫茶店の経営を
していましたが、シャンソンは
ずっと身近にある音楽でした。生
まれる前から聴いていたと言っ
ても過言ではありません。いや、や
り言い過ぎな気もしますが……。
はりに、今の「アコリット」と
してオーブンしたのは二十二年前
になります。それ以来、年中無休
で約八千日も音楽が流れ続
けています。

三年前には
「シャンソニエ」
として改装し、
ピアノも新たに
入れ、ライブ会
場としてもご利
用頂けるよう
になりました。

私も父親と共
に、庄司淳先生
について「歌う
こと」を習い始
めました。父親
のシャンソン熱
が高じて、私に
もそれが移った

次第です。

習い始める以前には気がつか
なかったシャンソンの歌詞や旋律の
奥深さに日々驚き、四苦八苦しな
がら練習しています。

シャンソンには別れの歌や、過
去を懐かしむ歌詞が多いです。望
遠鏡を逆さに見た風景を懐かしむ
歌の中で、人々は再会を喜び、過
去の恋人を慈しむ。若い頃に気づ
けと言うほうが無理なのかもしれ
ません。

いずれにしても上品な趣味であ
ることに間違いはないでしょう。
過去を積み重ねるほど、歌の深
みは増していきます。まるで雪の
ように。

季節のフルーツを使った手作り
のケーキや薫り高い紅茶、店内の
木製の椅子やアール・デコ調の内
装、ミントやウエッジウッドの
食器など、店内にあふれる「音楽」
を楽しんで頂ければと思います。

(高梨雄太郎記)

(JR山手線目白駅下車、
駅左側下り階段中段)



CHANSON RGSシャンソン研究会発行

発売中

日本生まれのシャンソン I

CD・カラオケ付き 定価 2000円 送料300円



●第5回「日本生まれのシャンソンI」を歌う会は平成25年10月吉日ギャラリー橋本にて開催予定
●「日本生まれのシャンソン」ホームページ <http://rgschanson.com>